

2019年1月7日

SAAJ NEWS RELEASE

「資本の特徴を有する金融商品」について意見書を提出

公益社団法人 日本証券アナリスト協会(会長：新芝 宏之 岡三証券グループ 代表取締役社長)は、2018年6月28日に国際会計基準審議会(以下IASB)が公表したディスカッション・ペーパー(以下DP)「資本の特徴を有する金融商品(以下FICE)」について意見書を作成し、1月7日にIASBへ提出しました。

【意見書のポイント】

- ✓ FICEに対応するため、時点特性と金額特性による4枠のマトリックスで、資本と負債を分類するというDPの基本的な考え方について、実在の様々な金融商品を想定した場合、財務諸表利用者に提供される有用な情報の増加にどれだけ寄与するのか、自信を持って判断できなかった。
- ✓ 要件ベースのアプローチを適用して、財務状態計算書において、①企業の利用可能な経済的資源と独立の金額に対する義務を含んでいない金融負債、②純額がどの独立変数の影響も受けないデリバティブ金融資産及びデリバティブ金融負債、③部分的に独立したデリバティブの帳簿価額を区分して表示するという予備的見解に基本的に賛成する。
- ✓ 一方、財務業績の計算書において、上記①～③から生じる収益および費用を、その他の包括利益(OCI)に表示し、リサイクリングは行わないという予備的見解には反対する。
「収益および費用は純損益表示する」という『概念フレームワーク』の原則的な要求を無視してまで、「OCIにさらに複雑性を加える」IASBの意図には疑問を感じる。
- ✓ FICEの増加は企業の資本構成を過度に複雑にすると考えられるが、FICEの発行によって生じる会計上のミスマッチにまで、会計基準で対応する必要はないであろう。財務諸表利用者に提供する情報の改善という意味では、むしろ会計上のミスマッチを財務諸表へ積極的に示して、これらの金融商品から生じる収益費用を別途、詳細に注記などで開示すれば十分であろう。

【資料1】 Re: Comments on Discussion Paper
“Financial Instruments with Characteristics of Equity”

【資料2】 DP「資本の特徴を有する金融商品」について

本件に関するお問い合わせは下記まで

SAAJ 公益社団法人 日本証券アナリスト協会

電話：03-3666-1577

担当：理事・教育第1企画部長 かいます 貝増 眞